



## 研究テーマ

- 1 動脈硬化・血栓症の病態解明
- 2 血栓症の発症予測・画像診断技術の開発
- 3 薬物や健康食品の評価



## 浅田 祐士郎

あさだ ゆうじろう

医学部

医学科

病理学講座

構造機能病態学分野

教授

## キーワード

動脈硬化症、動脈血栓症、  
静脈血栓症、血小板、凝固  
因子、病理診断、動物モデル

特許情報・

共同研究・

応用分野など

循環器内科、循環器外科、  
放射線科、核医学研究者、  
製薬企業と共同研究を行っ  
ています。

・動脈硬化の検査方法

特願 2012-084684

PCT/JP2013/060103

## 研究概要

心筋梗塞や脳梗塞などの心血管病は、動脈硬化症を基盤とした血栓症（血液が血管内で固まって循環障害を起こす病気）によって発症します。

当研究室では、動脈硬化症と血栓症について、病気が起こる仕組みの解明、病気の発症を予測するための血液中や血管壁中の因子の探索、病気の診断に関わる画像診断技術の開発を行っています。また、新しい薬剤等の抗動脈硬化、抗血栓作用の機能評価も行っています。

## 1 動脈硬化・血栓症の病態解明

心筋梗塞や脳梗塞の多くは動脈硬化巣が破綻し、血栓が起こることによって発症します。外科手術で摘出された血管（病理標本）や動物モデルを用いて、動脈硬化症と血栓症が、どのように発生し、どのように進行するのか、この際に重要な細胞、蛋白質や代謝産物などを研究しています。発生から進展の病態解明は、予防や早期治療、新しい治療法に繋がります。

## 2 血栓症の発症予測や画像診断技術の開発

血栓症の発症を予測できれば、心血管病の発症予防や発症しても軽症で抑えることが可能となります。このため病理標本、動物モデル、培養細胞、等を用いて、血管壁や血液より血栓症の発症を予測できる因子（バイオマーカー）の探索を進めています。これにより新しい検査法、治療薬の候補、また画像診断の指標の開発に繋がることが期待されます。

## 3 薬物や健康食品の評価

主に中型実験動物を用いて動脈硬化・血栓症の疾患モデルを作成し、新規薬物や健康食品の抗動脈硬化、抗血栓作用の評価を行います。

## ホームページ

病理学講座構造機能病態学分野 [www.med.miyazaki-u.ac.jp/patho1/index.html](http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/patho1/index.html)

## 技術相談に応じられる関連分野

組織標本作製、病理学的評価、組織切片をもちいた抗体による抗原の検出  
モデル動物作成（動脈硬化症、動脈血栓症、静脈血栓症）

## メッセージ

共同研究の希望テーマ：循環器疾患の薬剤開発、循環器疾患の画像診断